

令和2年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業 成果報告書

団体名：学校法人川崎学園 川崎医療福祉大学

1. 事業の実績

(1) 事業目的

二種免許状所有者が中心である現職の幼稚園教諭に対して、2019年度に実施した事業に引き続き、幼稚園教諭一種免許状上進のための免許法認定講習を開設・実施することにより、地域の幼児教育の質の向上に寄与する。また、免許状更新講習にも対応可能な枠組みや内容を満たした免許法認定講習を開発・実施することにより、講習にかかる現職教員の負担を軽減し、効率的な幼稚園教諭一種免許状の取得を実現する。

(2) 事業概要

2019年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業を実施するにあたり、岡山県教育委員会に確認したところ、岡山県における幼稚園教諭免許状の一種免許状への上進を希望する教員が多いことが判明した。そこで、当該教員が幼稚園教諭一種免許状を取得する機会を拡大し、地域の幼児教育力の向上に寄与することを目指し、2019年度委託事業を実施した。外部有識者（岡山県国公立幼稚園・こども園長会会長、岡山県私立幼稚園連盟理事長、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長、他大学幼稚園教諭養成課程設置校教授）と本学代表者（幼稚園教諭養成課程をもつ学科の学科長・教授）を構成員とした2019年度第2回検討委員会を、令和2年1月11日に開催し、引き続き令和2年度「幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業」に応募し、本学において免許法認定講習を開設・実施することにした（図1・2）。

本学における2019年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業は、3年間で幼稚園教諭一種免許状を取得できるよう講習（全10講習10単位）を開設予定としたものであった。計画1年目に当たる2019年度は、合計3単位の講習を開設し、40人弱の参加者があったものの、事業採択後の事業検討委員会の開催と事業内容の決定の関係で周知の期間・募集期間が短かったこともあり、募集期間終了後、複数の教諭や教育委員会から問い合わせがあったことから、2019年度受講できなかった上進を希望する教員が幼稚園教諭一種免許状を取得する機会を拡大し、令和2年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業は、2019年度から開始した3年間の講習（全10講習10単位）に加え、令和2年度から同様の3年間の講習（全10講習10単位）を新たに開設することとなった。

■令和2年度検討委員会の構成■（※委員長は、2019年度に事業に引き続きEが務めた）

A：岡山県国公立幼稚園・こども園長会（会長：武田直美）

B：岡山県私立幼稚園連盟（理事長：光岡美恵子）

C：全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会（会長：猪木直樹）

D：岡山大学大学院教育学研究科発達支援学系幼児教育講座（教授：高橋敏之）

E：川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科（教授：橋本勇人（事務局長））

【検討委員会の活動内容】

免許法認定講習及び免許状更新講習それぞれの枠組みや内容を満たす講習の開発及び運営に関する助言・評価を実施した

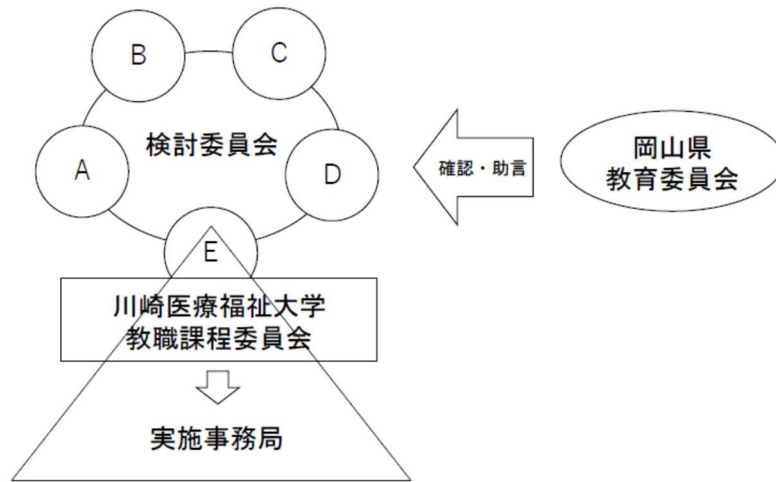


図1 検討委員会、実施事務局、関係委員会等との関係

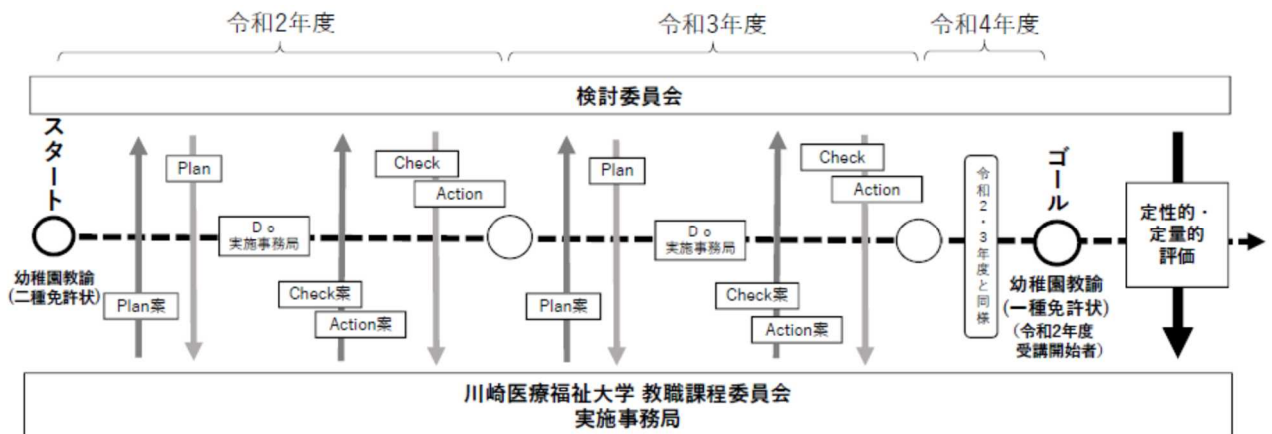


図2 免許法認定講習（川崎医療福祉大学）による幼稚園教諭免許状上進のプロセス

また、受講者である現職教員にとって、一度の受講で免許更新及び一種免許状の取得両方に活用することができるようにするために、免許法認定講習及び免許状更新講習それぞれの枠組みや内容を満たす講習を文部科学大臣の認定を受けた上で、令和2年度の講習として、2019年度受講開始者用2年目4単位の講習と、令和2年度受講開始者用初年度分3単位の講習を加え、合計7単位の講習を実施することとなった（図3）。

	2019年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
2019年度 受講開始 コース	<1年目> 3単位の受講	<2年目> 4単位の受講	<3年目> 3単位の受講	計10単位 上進	
令和2年度 受講開始 コース		<1年目> 3単位の受講	<2年目> 4単位の受講	<3年目> 計3単位の受講	計10単位 上進
開設単位数	3単位	7単位	7単位	3単位	

図3 受講・上進のイメージ

当初は対面での講習を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を受け「新型コロナウイルス感染症への対応に関する免許法認定講習の実施方法の特例について」（令和2年4月28日付け文部科学省総合教育政策局教育人材政策課長通知）が発出され、また緊急事態宣言が全国に拡大された状況を踏まえ、令和2年度幼稚園教諭免許法認定講習7講習については同時双方向型の遠隔講習に切り替え、令和2年度第1回検討委員会（令和2年6月30日書面審議）の確認を経た上で実施した。

現職の幼稚園教諭等の中にはインターネット等の使用に不慣れな受講希望者もいると考え、遠隔での講習に参加できるようにするための丁寧な説明に努めるとともに、資料「Zoomでの講習参加の手引き」と、手引きによる説明を実際の画面や動きを見ながら確認することができるように動画「Zoomの設定と参加」「Zoomの基本操作」「Zoomの様々な機能」を作成し、本学の令和2年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業の紹介や参加申込を行うホームページ上に掲載し、必要な受講希望者が視聴できるようにした。また、講習当日には、上手く接続できない受講希望者のために常時複数人の教員が待機し、電話による対応も実施した。

氏名	職位	学位	専門分野等	備考
橋本 勇人 (事務局長)	教授	博士 (医療福祉学)	法学、日本国憲法 保育者のキャリア形成 教職概論	法学修士 日本保育学会評議員 日本保育学会第70回大会実行委員長
山野井敦徳	教授	教育学 博士	教育社会学 教育方法学 教育基礎理論	広島大学名誉教授 元・日本高等教育評価機構専門審査委員 元・文部科学省大学審査設置委員会評価委員
稲田 正文	教授	文学士	発達心理学 教育相談	公認心理師、臨床心理士 元・岡山県臨床心理士会会長 元・日本臨床心理士会幹事・理事・監事
田口 豊郁	教授	医学博士	公衆衛生学 人間工学 子どもの安全環境	労働衛生コンサルタント 労働安全コンサルタント 日本公衆衛生学会認定専門家
尾崎 公彦	教授	芸術学 修士	美術教育、造形表現 保育内容「表現」 幼児図画工作	玩具福祉学会理事 倉敷美術協会副会長 日本保育学会第70回大会実行委員
北澤 正志	准教授	文学士	日本語教育 幼児国語	岡山県 NIE 実践指定校実践代表者 元・全国進路指導会議企画委員 (H20 岡山県代表)
笹川 拓也	准教授	博士 (社会学)	社会学、社会福祉学 福祉行財政と福祉計画 地域福祉の理論と方法	日本保育学会第70回大会実行委員
中川 智之 (副事務局長)	准教授	博士 (学校教育学)	幼小の接続 教育方法の理論と実践 保育内容「人間関係・環境」	日本保育学会第70回大会実行委員・ 副事務局長 くらしき幼児教育ネットワーク委員
小合 幾子	講師	修士 (教育学)	カリキュラム編成論 保育内容「言葉」 幼児国語	前・岡山大学教育学部附属幼稚園副園長 かわさきこども園副園長(幼保連携型)
青井 則子	講師	学術学士	音楽表現 保育内容「表現」	日本保育学会第70回大会実行委員
森本 寛訓	講師	博士 (臨床心理学)	心理学 教育相談	公認心理師、臨床心理士 日本保育学会第70回大会実行委員
重松 孝治	講師	修士 (教育学)	特別支援教育 特別な教育的ニーズの 理解とその支援	岡山県立岡山東支援学校学校評議員 岡山市障害児保育巡回相談員 倉敷市教育委員会特別支援教育専門家チーム
入江 慶太	講師	修士 (心理学)	幼児理解の理論と方法 保育内容総論 子どもと遊びの指導法	日本保育学会第70回大会実行委員
岡正 寛子	講師	博士 (医療福祉学)	保育学(子ども環境学) 乳幼児期の成育環境整備 幼児生活	日本保育学会第70回大会実行委員 元・備前市職員 社会福祉士

【実施事務局の構成】 (※全て、川崎医療福祉大学医療福祉学部子ども医療福祉学科教員)

【実施事務局の活動内容】

免許法認定講習及び免許状更新講習それぞれの枠組みや内容を満たす講習を開発し、講習を開設・実施した(遠隔講習の当日のサポートは、松本優作助教、種村暁也助教が主に務

めた)。

※事務的なサポートは、これまで免許法認定講習及び免許状更新講習の実績があり、ノウハウの蓄積のある川崎医療福祉大学事務部教務課が担当した。

「新型コロナウイルス感染症への対応に関する免許状更新講習の実施における留意事項及び実施方法の特例等について」を受け、同時双方向型の遠隔授業による講習として実施した講習は下記の通りである。

【講習①：言葉領域指導法】

日程：8/17・24（計2回開講）

【講習②：造形表現】

日程：8/18・25・28（計3回開講）

【講習③：特別支援教育の理論と方法】

日程：8/19・26（計2回開講）

【講習④：特別な教育的ニーズの理解とその支援】

日程：8/20・27（計2回開講）

【講習⑤：学校教育社会学】

日程：8/21, 12/26（計2回開講）

【講習⑥：発達心理学】

日程：12/19, 1/9（計2回開講）

【講習⑦：教育相談の理論と方法】

日程：12/25, 1/16（計2回開講）

実施にあたっては、受講申込み手続き等の周知のため認定講習の案内チラシを、関係団体（岡山県国公立幼稚園・こども園長会、岡山県私立幼稚園連盟）と連携し、各園に郵送等にて配布した。

(3) 成果（事業の実績の説明）

幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業を受託し、「新型コロナウイルス感染症への対応に関する免許状更新講習の実施における留意事項及び実施方法の特例等について」を受け、本年度、同時双方向型の遠隔授業による講習として新たに開講した認定講習は7講習であり、各講習の内容、申込者数、受講者数は下記の通りである。なお、いずれの講習も受講者の上限は50名、受講料は更新講習のみの受講者は6,000円、加えて認定講習も受講する受講者は1,000円を加算した。

【講習①：言葉領域指導法】

内容：言葉の獲得に関する領域「言葉」の指導法について、領域「言葉」のねらい・内容、幼児の言葉の獲得に関する発達の概要、幼稚園教諭としての幼児の実情を把握と活動の援助、言葉の指導の基礎となる日本語を聞く・話す・読む・書くことへの基礎的な理解、言葉の育ちの系統的な把握、発達に応じた言葉の力を豊かに育むための環境

構成及び援助のあり方等を主な内容としている。

日程：8/17・24（計2回開講）

申込人数：37名、受講者数：36名、単位取得者数：36名

【講習②：造形表現】

内容：幼児造形教育及び幼児の発達に応じた教材開発等に関する専門的事項について、平面表現や紙の造形、粘土造形などの立体表現の基礎知識・技能、素材や用具についての理解や扱い方、描画による表現、スケッチによるアウトラインの抽出、アウトラインの変化による表現、版画への展開、様々な素材体験、素材や用具の保管と扱い等を主な内容としている。

日程：8/18・25・28（計3回開講）

申込人数：33名、受講者数：27名、単位取得者数：27名

【講習③：特別支援教育の理論と方法】

内容：障害児への支援の実際について、様々な発達領域における支援の紹介および事例検討などを通して障害児の支援方法、保護者や家族が置かれている状況の理解や支援、発達支援にかかわる各種関係機関との連携、発達障害のある人への支援プログラム（TEACCH Autism プログラム）の理念と支援の概要、自閉症スペクトラム障害のある人やその支援等を主な内容としている。

日程：8/19・26（計2回開講）

申込人数：11名、受講者数：10名、単位取得者数：10名

【講習④：特別な教育的ニーズの理解とその支援】

内容：様々な障害をもつ幼児をはじめ、母国語や貧困の問題等により特別な教育的ニーズのある幼児の理解とその支援について、各幼児の生活上の困難、障害や貧困等の概念の理解とその支援の意義、特別な教育的ニーズのある幼児の理解と支援の概要、支援を進めるための支援計画の作成、記録及び評価の実施、他の教職員や各種関係機関との連携、組織的な対応等を主な内容としている。

日程：8/20・27（計2回開講）

申込人数：10名、受講者数：10名、単位取得者数：10名

【講習⑤：学校教育社会学】

内容：教育を実践していく上で重要となる教育及び教育学の用語・諸概念・理論について、教育学の基礎、教育社会学の歴史、生涯教育学習、学校教育に関する社会学的な見方・考え方・捉え方、社会学における自我の形成と発達、遊び仲間における他者との交流（相互作用）、学校教育における学習、学習集団、集団の機能と構造や人間関係、集団過程や人間関係の創意工夫、教員の役割や職務内容及び民主的な学校運営等を主な内容としている。

日程：8/21, 12/26（計2回開講）

申込人数：37名、受講者数：37名、単位取得者数：37名

【講習⑥：発達心理学】

内容：幼児がよき大人に発達するような援助を実践するために必要な子どもの発達に関わる心理学の基礎について、人間の受精・誕生から死までの発達の概要、発達期の各期の特徴、幼児の将来に影響を及ぼす保育者と幼児との相互的關係、子どもと子どもの關係、子どもと保護者の關係等を主な内容としている。

日程：12/19, 1/9（計2回開講）

申込人数：10名、受講者数：9名、単位取得者数：9名

【講習⑦：教育相談の理論と方法】

内容：教育相談の理論及び方法について、現代教育における教育相談のあり方、カウンセリングに関する基礎的な知識や手法、幼児の理解、問題発生の察知・把握、教師としての援助、保護者への支援と協力關係、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの役割、児童相談所および外部専門家の活用と協働、幼児理解の諸理論や方法、幼児理解に資する集団の中の個の育ちや保護者支援の在り方等を主な内容としている。

日程：12/25, 1/16（計2回開講）

申込人数：39名、受講者数：39名、単位取得者数：39名

事業への申込者については、政令指定都市である岡山市と中核市である倉敷市からが全体の約8割を占めていた。公立園、私立園の比率としては、約4割が公立園、約6割が私立園であった。

受講者は当初の見込み（40～60名程度）の範囲内ではあるが少なめであった。これは、保育者にとってインターネットを利用した遠隔講習に対する抵抗感が大きかったことが影響しているようである。昨年度の本事業への参加者に、今年度開催するインターネットを利用した同時双方向型遠隔講習について周知した際には、「来年度対面で講習が実施されるのであれば、来年度に受講しようかどうかと迷っている」という相談が複数あった。来年度まで待ったとしても、新型コロナウイルス感染症の状況の見通しが見えないこともあって、昨年度の受講者の多くは今年度の受講に踏み切ったようであるが、今年度からの新規の受講者は少なくなったと考えられる。スマートフォンの取り扱いに慣れている若手の保育者の方が、参加へのハードルは低かったようである。他方、遠隔講習に切り替えたことにより、県外からの受講者が若干名あった。また、育休中の子育てをしている参加者からは、対面での講習よりも参加しやすかったという声もあった。

一部、申込みをしていたものの受講できなかった教諭も存在した。理由は、コロナ禍の影響により休園した分、夏季休業期間が短縮されたことによるものや急な用務等によるものであった。

令和2年度は遠隔での講習となったが、2019年度に引き続き令和2年度にも開催している講習については、概ね昨年度よりも高い評価を受けることができた。また、令和2年度から開講した科目についても概ね高い満足度を得ることができた。初日と2日目以降に、担当

講師が変わらなかった講習について、初日と2日目以降のアンケートを比較すると、いずれも初日より2日目以降の方が高い評価となった。現職保育者を対象とする同時双方向型遠隔講習の可能性と効果が示されたものと考えられる。

講習を担当した講師からは、グループワークにおいて、ランダムでグループを組むことが一瞬ででき、様々な方と交流する機会をつくることができた、グループワーク後の発表内容も対面で実施した際と遜色なかった、とのフィードバックがあった。参加者はグループワークに積極的に取り組む姿が見られた。対面で実施した際には、休憩時間等に周囲の受講者と対話できていたものが、遠隔講習ではそのような機会がないため、グループワークになった際に話をしたいことがたくさんあり、時間が足りないグループも対面時よりも多く見られたとのことであった。その一方で、グループワークの様子を把握しにくかった、受講者からしてもグループワーク時の講師への質問がしにくかったと思う、等のフィードバックもあった。

参加2年目となる参加者の内、7単位を修得したのは24名、6単位を修得したのは8名、5単位を修得したのは1名であった。また、参加初年度となる参加者の内、3単位以上を修得したのは11名であった。本事業への参加者は、令和3年度の幼稚園教諭一種免許状の上進に向け順調に受講を進めている。

令和3年2月7日には第2回検討委員会を開催し、本年度事業の進捗状況に関する評価と次年度認定講習の開催に向けた案の検討を実施した。

(4) 今後の課題・展望

募集時期がコロナ禍の影響により活動の自粛がなされていた時期であり、またインターネットを用いた遠隔による講習にも不慣れな時期であった。また、講習への参加の希望をもつものの、園長の考えや園の雰囲気により、講習に参加できなかったという声を複数聞いている。次年度は、岡山県国公立幼稚園・こども園長会、岡山県私立幼稚園連盟との連携をさらに深め、幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業の意義及び本学で開催する認定講習のさらなる周知を図りたい。

令和3年度は、2019年度当初の計画から3年目となる、本学で開催する認定講習（10単位）の受講により幼稚園教諭一種免許状への上進者が誕生する年度となる。本年度の受講者に加え新たな受講希望者を受け入れることのできる体制を整えるとともに、認知度の向上を図り、令和2年度受講開始者を含めて令和4年度には、目標とする40人以上の幼稚園教諭一種免許状への上進を達成できるよう、今後も教職員が力を合わせ一層励んでいく所存である。